

教材2「話し合いを重視した身近な社会問題学習」

身近な社会問題をテーマに、成人の豊富な経験を生かし、話し合い学習の手法を用いて、経験に縛られた発想を柔軟にする。

1 教材のねらい

成人の豊富な経験を有用な学習資源と捉え、参加者同士の話し合いを重視します。話し合いで扱う題材は、講習会、研修会の参加者の属性(年齢、所属組織等)に応じて、身近な社会問題を取り上げた新聞記事やDVD等の視聴覚資料を使用します。参加者にとって、他者と共に学ぶことを通じて、多様な考え方や価値観を学び、自身の価値観や考え方を変容させる機会となります。

2 学習者としての成人の特性と学習支援の方法

近年、生涯学習という言葉がよく聞かれますが、これは、学校制度の普及が進む中で、人間の学ぶという行為が、乳幼児期、青少年期だけでなく、中年期や高齢期も視野に入れて考えられるようになってきたことを意味しています。そうした中で、成人の学習を支援する方法が探求されるようになり、子どもを対象とする教育の原理・方法とは異なることも明らかになってきました。以下に示すのは、代表的な三つの重要な視点です。

①成人の豊富な経験は有用な学習資源であり、それを学習場面で活かす。

②成人の経験に縛られた発想を柔軟にする。

③成人が学習する理由は、成人期における社会的役割とも関係している。

①に関しては、成人は、長く生きている分、豊富な経験を有しており、こうした経験が有用な学習資源となるということです。このことは、職場の研修や、市民活動の実践など様々な場面で、ワークショップという学びの方法が積極的に取り入れられ、参加者が意見を出し合いながら、共に学び合うという参加型学習が行われていることにつながっているといえます。

②に関しては、成人は豊富な経験をもつ反面、経験に縛られた発想が、決めつ

けや思い込みや固定観念となって、新たな事柄を吸収できないなど、かえって学習の障壁になることもあるということです。したがって、こうした成人のかたくなな発想や意識を柔軟に変容させていくきっかけを作る上でも、他者と共に学ぶことは重要となってきます。

③に関しては、成人が学習する主な理由は、成人期における社会的役割に基づいた発達課題と関係しているということです。つまり、乳幼児、青少年の場合は、人格の形成、将来に向けた基礎学力の定着等が、学習する大きな理由となるのに対して、成人の場合は、就職、労働、結婚、育児、介護等の生活上の課題解決のために、学習する場面が非常に多いといえます。したがって、成人の主権者としての意識を高めていく上で、日常の身近な社会問題を題材とすることは有効といえます。

3 話し合い学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- ・趣旨説明(10～15分)
- ・グループの発表と役割分担の決定(5分)
- ・アイスブレイク(15～20分)
- ・演習(20～30分)
- ・グループ討論(40～50分)
- ・休憩(10分)
- ・発表会(20～30分)
- ・参加者による振り返り(10分)
- ・まとめ(10～15分)

計 2 時間半程度

(2)事前に準備すること

- ①名簿の作成とグループ分け
- ②身近な社会問題から題材を選定(新聞記事、DVDなどを利用)
- ③話し合い学習に使用する演習シート、ワークシート、振り返りシートの作成

①参加者が決まり次第、名簿を作成し、グループ分けを行います。1グループあたりの人数は4名とし、なるべく各グループの構成員が多様(年齢、性、所属組織、職業、居住/活動地域など)になるように配慮します。全体の人数によっては、全グループを均等に4名ずつに分けることが難しい場合もありますが、その場合も3名または5名となるグループ数を最小限にとどめ、なるべく4名のグループを多く作って下さい。

②題材を選定する際には、下記の二つの視点を重視して下さい。

ア 短時間の新聞記事の読解やDVD視聴で、参加者が話し合いを行うことが可能な題材か

どのような題材を選定するかは、活発な話し合いとなるか否かにも関わります。限られた時間の中で、参加者が自身の経験等に照らし合わせて、身近に考えられるような題材が望ましいです。以下に例示するように、参加者の属性(年齢、職業等)もふまえて選定するとよいでしょう。ある程度の知識や情報が必要となる専門性が高いテーマで話し合いを行う場合には、事前学習や事前講義なども組み入れて、やや長めの時間で全体のプログラムを組む必要があります。

- ・大学生、若い社会人……就職、結婚など
- ・中年世代……子育て、男女共同参画、労働、ワークライフバランス、介護など
- ・高齢者……高齢期の健康、社会参加など
- ・全世代……防災、エネルギー、多文化共生、地域再生など

イ 取り上げる新聞記事やDVDに複数の考え方が示されているかどうか

政治的中立の観点からも、使用する新聞記事やDVDなどの資料において、「その題材に関して、一つの考え方だけでなく、複数の考え方が示されている」ことが望ましいです。

特にアの視点が重要となりますが、イの視点もふまえられれば、参加者同士の話し合いもより活発になることが期待できます。題材の選定は、非常に重要となりますので、企画の際に複数の人間が関わることを望ましいです。

※本教材では、例として「未婚」をテーマとする新聞記事を使用していますが、DVDや短いエッセイなどでも構いません。便宜上、実際の新聞記事の代わりに、記事の概略をA4サイズで掲載しています。新聞記事など読み物を利用する場合には、B4サイズ1枚程度の分量が望ましいです。

③各種シートの作成にあたっては、添付資料を参考にして下さい。

- ・ワークシート4(演習シートⅠ・アイスブレイク用) : A5サイズ →31頁
- ・ワークシート5(演習シートⅡ) : A4サイズ →32頁
- ・ワークシート6 : A4サイズ →33頁
- ・ワークシート7(ふり返しシート) : A5サイズ →34頁

※「演習シートⅠ」と「ふり返しシート」は、記入時間も短めに設定してありますので、参加者にプレッシャーを与えない意味でも、A5サイズぐらいにするのが望ましいです。

※「演習シートⅡ」の下部に、「自分の考えをまとめる上でのポイント」といった形で、参加者が、自分の考えをまとめていく際の注意事項などを記述しておくことが望ましいです。

4 学習の手順

(1)趣旨説明

「学習者としての成人の特性と学習支援の方法」(24頁)などをふまえて、豊富な経験を有している成人だからこそ、「話し合い」に意味があり、身近な社会問題を、他者と共に学ぶことを通じて、多様な考え方や価値観を学び、自身の価値観や考え方が変わっていくことに意味があることを伝えます。また、話し合いを行う際に、「他者の意見も聞く」、「自分の意見を他者に強要しない」等といった姿勢の大切さも説明します。最後にプログラム全体の流れを説明します。

(2)グループの発表と役割分担の決定

各グループで司会係2名(アイスブレイク1名、グループ討論1名)、記録係1名、プレゼン係1名を決定します。グループの4人全員に何らかの役割を与え

ることによって、参加意識を高める意味があります。3名のグループの場合には、司会係を1名とし、また、5名のグループの場合には、記録係を2名として、グループ討論の前半と後半で分けるなどして、対応して下さい。

(3)アイスブレイク(ワークシート4を使用)

参加者をリラックスさせ、参加意欲を高めめます。3分ほどで簡単なブレインストーミングを各自にやってもらった上で、司会係(アイスブレイク担当)の進行のもとで、一人あたりの持ち時間を3分として、自己紹介と他のメンバーからの質問を受けます。アイスブレイクのテーマは、その後の話し合いの活性化につなげるために、参加者の属性や、当日の研修内容(学習内容)などをふまえて設定するのが望ましいです。

(4)演習(資料1/ワークシート5を使用)

短めの新聞記事(資料)を読んだ上で、**演習シートⅡ**の項目に即して、自分の考えを簡潔にまとめてもらいます。

(5)グループ討論(ワークシート6を使用)

司会係(グループ討論担当)の進行のもと、**演習シートⅡ**の項目に即して、参加者全員が意見を出し合い、話し合いを行ってもらいます。記録係は、**ワークシート6**に話し合いの内容を箇条書きでまとめます。

※参加者の人数がそれほど多くない場合、グループ討論後の休憩時間中に、各グループの記録係が作成した**ワークシート6**を全員分印刷して、休憩時間終了後に配布するのもいいでしょう。その後の発表会において、参加者は各グループの記録を手元におきながら発表を聞けますし、また、参加者にとって学習記録を持ち帰ることができるというメリットもあります。

(6)発表会

各グループのプレゼン係が、記録係が作成した**ワークシート6**に基づき、自分のグループの話し合いの内容について、全体に向けて、3分程度を目安とし

て発表します。グループ数が多ければ、発表会全体の時間を長めにとります。逆にグループ数が少なければ、各グループの持ち時間を長めにとったり、質疑の時間を設けたりするなどして対応して下さい。

(7)参加者によるふり返り(ワークシート7を使用)

グループ討論や発表会を通して、他者と学ぶことの意味や難しさをどのように感じ、また自身の中で変化が見られたか否かを、ふり返ってもらいます。

(8)まとめ

全体の総括を行います。その際に、以下の点に留意することが望ましいです。

- ・グループ発表を通じて、共通に出てきた重要な論点をあげます。
- ・各グループから出された多様な意見や視点の中で、ユニークと思われる視点を取り上げます。
- ・グループ発表においては言及されなかった他の重要な視点があれば提示します。
- ・新たな自分に気付く、出会うことは重要であることを説明します。
- ・最後に、参加者から回収したふり返りシートの中から、いくつか意見を紹介します。紹介する意見はランダムに選んで構いませんが、より有益な意見を取り上げたい場合には、全体の進行を担当している者が総括を行っている間に、短時間で、主催者の他のメンバーが、一通りふり返りシートを概観し、選び出すという方法もあります。

5 主催者が注意すべきこと

アイスブレイク、演習、グループ討論の間は、会場内を巡回し、質問に応じたり、各グループの様子を観察して下さい。例えば、全く会話が進まない、一人の人間が話しすぎている等があれば、少しの間同席して、適宜アドバイスするなどしてサポートします。回収したグループのワークシート6と参加者のふり返りシートは、次回の企画の際の参考資料とします。

資料1「新聞記事「未婚の若者がなぜ増えているのか」(X年X月X日)」

A氏：不安定な雇用がもたらす影響

- ・若者の不安定な就業構造が、結婚を選択することを難しくしている。
- ・若者の雇用を安定させるには、失業対策、経済政策のほかに、学校を卒業したり、中退したりして無業者になる前に、手助けをする必要がある。こうした若者に働きかけるには、進路指導の先生や地域の人、引きこもりを支援するNPOなどの役割がますます重要になってくるだろう。
- ・若者の雇用は安定しない。職に就けないから、自分が何者かというアイデンティティも持ちにくい。雇用問題を解決しなければ、学校で教えても、若者に受け入れられないだろう。
- ・正社員でなくても、本人の能力があれば賃金が上がったり、長期雇用に移ったりできるケースも出始めている。そうした仕組みが整い、子育てで一時離職してまた復職するといった多様な働き方ができるようになれば、出産や育児もしやすくなるだろう。若者の雇用対策と少子化対策を連動させながら、進めていく必要がある。

B氏：時代の変化に伴う若者の価値観や生き方の変化がもたらす影響

- ・結婚するのが当たり前といった風潮が弱まり、結婚という行為が選択となってきている中で、未婚が増えている構造もある。一定の結婚願望があったとしても、魅力がない相手とは無理に結婚しようとは思わなくなっている。
- ・若い世代を中心に、ゲームやパソコンなど無機質なものとの付き合いが増え、目と目でコミュニケーションする機会が減っていることも、人としての魅力を低下させている側面もあるのでは。
- ・親族との付き合いが減り、子どもと接する機会も減る中で、街で見かけるのは他人の子どもであり、そもそも子どもをかわいいと思えなくなっているという内面の変化もあるのではないか。育児支援策も重要だが、若者の内面の変化に対応した支援策も重要となってくる。例えば、学校教育において、年少の子どもとふれ合う機会や、地域の様々な人とコミュニケーションを図る機会を積極的に作っていくことで、子どもをかわいいと思う気持ちが育まれたり、人間としてのコミュニケーション能力も高まっていくきっかけとなるのでは。

ワークシート4「演習シートI(アイスブレイク用)」

グループ討論に備えて、特に下記の点に関して、あなたのことを説明できるように頭の中を整理して下さい。

(1)研修に参加したきっかけ(所属組織等)

(2)研修に参加するきっかけとなった所属組織(選挙啓発組織、行政機関、大学、民間団体など)での経験や活動(仕事)内容

(3)特に関心のある政治や社会問題のテーマ

ワークシート5

「演習シートⅡ(事例：「未婚化・少子化」という社会問題のテーマ)」

(1)二人の筆者の考えに対して

A氏の考えに対して

B氏の考えに対して

(2)資料に提示されている以外の視点は？

(3)その他、このテーマに関連することなら何でも

☆自分の考えをまとめる上でのポイント(事例にそくして)☆

- ・まずは、新聞記事で筆者が書いていることを理解することを心がけます。
- ・その上で、書かれていることに関して、A氏、B氏それぞれの考えに対して、賛成できる点、疑問に思う点などを提示します。批判的に読む視点も重視して下さい。

ワークシート6

グループ番号【 】

グループのメンバー(氏名・所属) _____

司会(アイスブレイク) : _____

司会(グループ討論) : _____

記録 : _____

プレゼン :

(1)二人の筆者の考えに対して

(2)資料に提示されている以外の視点は？

(3)その他、このテーマに関連することなら何でも

ワークシート7「振り返りシート」

今日の研修会(学習会)を振り返って下さい。

(1)取り上げられた題材(テーマ)は、あなたにとって関心のもてるものでしたか？
関心の高低とその理由を書いて下さい。

(2)グループ討論の前と後で、題材(テーマ)に対するあなたの考え方に変化はありましたか？変化の有無とその内容を書いて下さい。

(3)グループ討論のような、他者とともに学ぶことについて、どのような意味、あるいは難しさを感じましたか？

(4)今日のテーマ以外で、他者ととともに一緒に討論したいテーマがあれば書いて下さい。
